



# 高志の国文学館

高志の国文学館  
KOSHINOKUNI Museum of Literature

KOSHINOKUNI Museum of Literature

観覧料 一般500円(400円)、大学生250円(200円)、  
前売り・一般は400円 [お求めは高志の国文学館、アーツナビで]

\* ( )内は20人以上の団体料金

\* 小・中・高校生及びこれに準ずる方、各種障害者手帳をお持ちの方は  
常設展・企画展ともに無料で観覧できます。

## 編集委員 池澤夏樹

主催 高志の国文学館

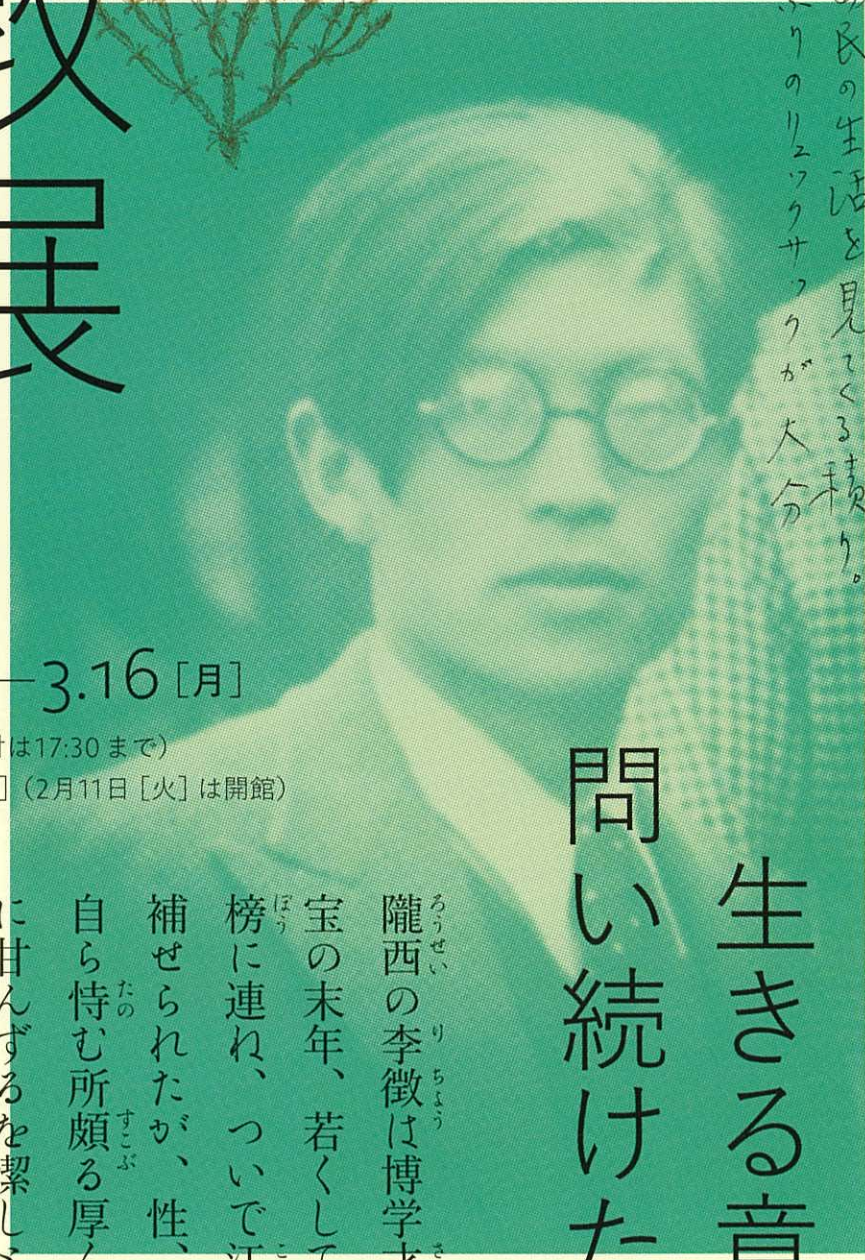
後援 NHK富山放送局、富山新聞社

企画編集 県立神奈川近代文学館 / 公益財団法人神奈川文学振興会

広報協力 2019文豪ストレイドッグス製作委員会

# 生誕一一〇年 中島敦展

Special Exhibit: Nakajima Atsushi  
Literature that continues to ask the meaning of life



今から出張旅行にある。  
今度はお方々と一緒に帰るから  
帰れない。大伴二週間の予定  
で、月末に帰る。そのころは  
に島民の生活を見てくる積り。  
久しぶりのリュウウサックが大分

2020.1.19 [日]—3.16 [月]

開館時間 9:30-18:00 (観覧受付は17:30まで)

休館日 毎週火曜日、2月12日 [水] (2月11日 [火] は開館)

# 山月記、名人伝、 李陵・司馬遷 生きる意味を 問い続けた文学

隴西の李徴は博学才穎、天  
宝の末年、若くして名を虎  
榜に連れ、ついで江南尉に  
補せられたが、性、狷介、  
自ら恃む所頗る厚く、賤吏  
に甘んずるを潔しとしな  
った。いくばくもなく官を  
退いた後は、故山、號略に  
帰臥し、人々交を絶って、  
ひたすら詩作に耽った。

『中島敦全集1』『山月記』(ちくま文庫)より



南洋へ持っていったトランク  
県立神奈川近代文学館蔵（以下\*）

知識人の家系に生まれて漢学と英語を  
自在にこなし、それを主翼として  
世界文学の世界をはるか遠くまで飛行した。  
エンジンとなったのは想像力。  
南洋諸島も古代中国もアッシリアも  
彼の脳内では自宅の庭のようなもの。  
私的な領域をやすやすと逃れて  
彼が構築したのは、人間の普遍を目指す  
新しい文学だった。

池澤夏樹

## 関連イベント

### 1 高校生書道パフォーマンス（プレイベント）

1月11日〔土〕13:00-13:20  
出演 富山県立富山いずみ高等学校 書道部  
会場 当館エントランスロビー  
●申込不要 ●参加無料  
\*開会前のイベントとなります。

### 2 オープニング朗読会「山月記」 （ちくま文庫「中島敦全集1」、1993年）

1月19日〔日〕11:00-11:20  
出演 鹿沼健介（NHK富山放送局アナウンサー）  
会場 当館ライブラリーコーナー  
●申込不要 ●参加無料

### 3 記念講演「世界文学としての中島敦」

2月8日〔土〕14:00-15:30  
出演 池澤夏樹（作家）  
会場 当館研修室101  
●申込必要 ●参加無料 ●定員72名

### 4 関連講座「中島敦文学の魅力」

3月1日〔日〕14:00-15:30  
出演 山下真史（中央大学文学部教授）  
会場 当館研修室101  
●申込必要 ●参加無料 ●定員72名

### 5 展示担当者による

ギャラリートーク（展示解説）  
1月26日〔日〕、2月8日〔土〕、3月1日〔日〕  
会場 当館企画展示室  
●申込不要 ●要観覧券  
\*1月26日は14:00から、2月8日、3月1日は  
イベント終了後に行います（30分程度）。



「李陵・司馬遷」草稿 「文学界」1943年7月号に掲載  
中島の没後に妻・タカが作家の深田久弥へ託し、「李陵」の題で  
発表された。夥しい書き込みで徹底した推敲の跡が窺える。\*



長男・桓あて絵はがき  
1941年7月23日消印  
小学生の息子にパラオの様子を  
やさしい言葉で知らせる。\*

## 特設コーナー『山月記』

発表から80年近く経ったいまも、読み継がれる『山月記』。フランツ・カフカ『変身』との比較、古代中国における官吏制度など詳しく解説。



「臆病な自尊心と尊大な羞恥心」  
によって虎と化した男の独白

## 関連展示「文豪ストレイドッグス」

文豪の名を持つキャラクターたちが、それぞれの著書に因んだ異能力で戦う漫画「文豪ストレイドッグス」（原作・朝霧カフカ、漫画・春河35）。作品の主人公は〈中島敦〉。



© 2019 朝霧カフカ・春河35/KADOKAWA

## 関連展示 アニメ映画「バケモノの子」（細田守監督）

細田守監督のアニメーション映画「バケモノの子」は、中島敦の「悟浄出世」を参考文献として掲げ、制作された。

「キミとなら、強くなれる。」ある日、ひとりぼっちの少年・九太は、強さを求めて、バケモノ・熊徹に弟子入りする。初めはことあるごとにぶつかり合う2人だったが、修行の日々を通して、共に成長し、いつしか、まるで本当の親子のような絆を育んでいく。子どもの成長を祝福する沢山の父親たちの物語。



© 2015 THE BOY AND THE BEAST FILM PARTNERS

## 述いながら、悩みながら 追い求めた新しい文学の境地

漢学者の家系に生まれた中島敦（1909-1942）は、横浜高等女学校で教諭を務める傍ら、創作活動に打ち込みました。珠玉の作品『山月記』『名人伝』『李陵・司馬遷』などは今も多くの人々に愛され、読み継がれています。彼が短い生涯のなかで遺した作品は20編あまり、著書は2冊を数えるのみです。作家生活は一年に満たず、パラオ赴任中の1942年（昭和17年）2月に文壇デビューを果たしたものの、その年の12月に亡くなりました。作品を通して人間や文明社会に投げかけられた根源的な問題提起は、わたしたちに今を生きることを問い続けています。

中島敦の生誕110年を機に行う本展では、中島の短くも起伏に富んだ人生を「旅」と捉え、県立神奈川近代文学館で開催された特別展「中島敦展 魅せられた旅人の短い生涯」を、若い世代を含む多くの人たちが作品そのものと対話できるよう再構成して紹介します。

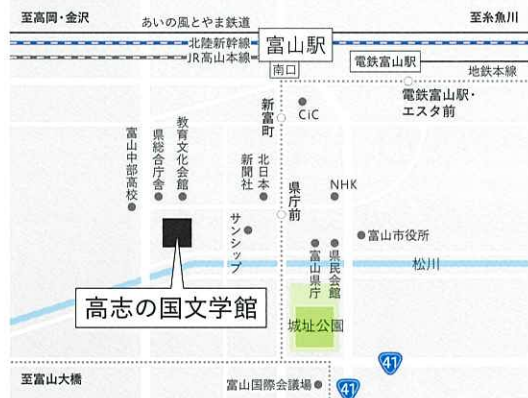
## 利用のご案内

開館時間 9:30-18:00（観覧受付は17:30まで）  
休館日 毎週火曜日、2月12日〔水〕（2月11日〔火〕は開館）  
観覧料 一般500円（400円）、大学生250円（200円）、  
前売り・一般400円〔お求めは高志の国文学館、アーツナビで。  
文学館受付にてチケットに引き換えます。〕

\*（ ）内は20人以上の団体料金。企画展観覧券で常設展もご覧いただけます。

\*次の方は、常設展・企画展ともに無料で観覧できます。  
小・中・高校生及びこれに準ずる方、各種障害者手帳をお持ちの方。

## 交通のご案内



JR・あいの風とやま鉄道富山駅南口から  
・市内電車「富山駅」乗り場から大学前行  
または環状線「県庁前」下車、徒歩5分  
・徒歩15分  
・コミュニティバスまいどはや（中央ルート）  
「サンシップとやま・高志の国文学館」下車、徒歩2分  
・ぐるっとBUS（北西回りルート）  
「高志の国文学館」下車  
富山空港から タクシー約20分  
北陸自動車道富山ICから 自動車約20分



## お問い合わせ

〒930-0095 富山県富山市舟橋南町2-22  
Tel 076-431-5492 Fax 076-431-5490  
http://www.koshibun.jp/



## 次回企画展予告

「生誕170年 ラフカディオ・ハーンの共感力  
—発見、探求、そして発信へ」展（仮称）  
2020年4月11日〔土〕-6月22日〔月〕